

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果概要について

令和5年4月19日（火）に、全国の6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。そこで、本校の結果等について、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1 調査の目的

学校における児童への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。

#### 2 調査内容【対象学年 6年生児童】

##### (1) 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・算数
- ② 調査範囲 原則5年生までの指導内容
- ③ 調査項目

##### ア 【知識・技能】

身に付けておかなければ、その後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。

##### イ 【活 用】

知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力、課題解決のために考え、それらを評価・改善する力等に関わる内容。

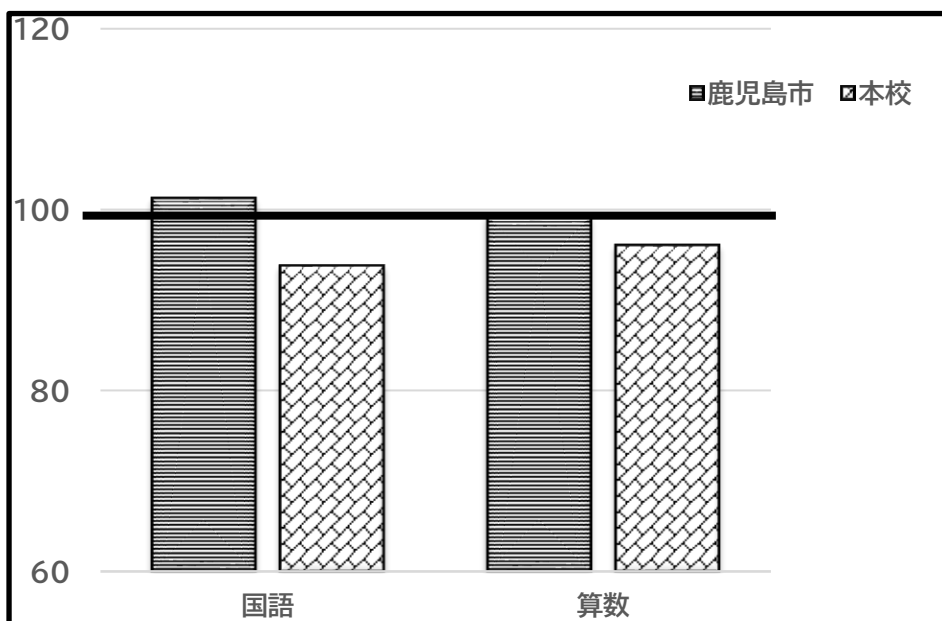
##### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活等に関する調査

#### 3 教科に関する調査結果の概要

下のグラフや表は、「全国・鹿児島市・錦江台小」における各教科「国語」「算数」の平均正答率を表したものです。左側が鹿児島市、右側が錦江台小になります。

##### (1) グラフから読み取れること



● 国語科、算数科のどちらの教科においても、鹿児島市の平均正答率を下回っている。

● 国語科においては、鹿児島市を大きく下回っている。

● 算数科においては、鹿児島市も正答率が低い。

(2) 各教科の結果より

1. 自校の傾向とその背景

【国語】

- (1) 本校の正答率が高かったところと低かったところ (☆高い ●低い)
- ☆ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
  - 「読むこと」「話すこと・聞くこと」、知識（漢字・敬語等）においては、全国・県より正答率が低い。
  - 情報（資料）を考えに繋げて解く問題、問題文の文章量が多い問題の無答率が高い。
- (2) 考えられる背景
- ① 本や新聞を読む機会が少ない。
  - ② 図を基に身に付けた力を活用する力が弱い。
  - ③ 普段から漢字や敬語を使用していない。
- (3) 対策
- 要約や字数制限問題について、苦手意識をもっている児童が多いことが分かった。また、情報（資料）を考えにつなげて問題や問題文の文章量が多い問題の無答率が高かったことから、考えをまとめる際、字数制限をしてまとめさせる活動の設定や生活で生かせる学習のゴール設定など、教育活動の工夫や学習習慣の定着を図るための工夫を図る。

【算数】

- (1) 本校の正答率が高かったところと低かったところ (☆高い ●低い)
- ☆ 2桁×2桁のかけ算、正方形の意味や性質など、既習事項の問題に関しては、よく理解し問題を解いている。
  - (2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題の正答率が低い。
  - 二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題において、場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が低い。
- (2) 考えられる背景
- ① 理解が不十分なまま、筆算の訓練へ学習が移行している。
  - ② 表を読み取る練習の機会が少ない。
- (3) 対策
- 「数と計算」、「変化と関係」、「表の読み取り」に課題があることが分かった。授業において、見方・考え方を働かせ、表現するといった一連の流れを取り入れた学習活動を行ったり、デジタルドリルを積極的に活用したりするなど、個に応じた問題に取り組ませる機会を多く取り入れるようにする。

4 質問紙調査の結果

本校6年児童のよさと課題 (☆よさ●課題)	今後、学校や家庭で取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 誰かの役に立つことを好意的に捉えている。</li> <li>☆ 外国の人と仲良くなることに対して、積極的に関わりをもちたいと願っている。</li> <li>☆ 将来の夢や希望を持っている。</li> <li>☆ 話し合い活動において、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。</li> <li>● <u>自己肯定感が低い児童が多い。</u></li> <li>● <u>学ぶ楽しさ、学びの必要性を感じていない児童が多い。</u></li> <li>● テレビ視聴やタブレット活用の時間が長い児童がいる。</li> </ul>	<p>本校の児童は、外国の人も含め、人との関わりをもつことに対して、非常に前向き捉える傾向がある。また、人との関係性の中で自分の成長を感じる傾向にある。</p> <p>そこで、充実した授業・学力向上につながるよう、目標達成の喜びを味わわせる授業、自分の学びに合った授業を行う。</p> <p>家庭においては、<u>称賛する機会</u>を多くもつとともに、家庭内のルールを決めたり、<u>規則正しい生活習慣</u>を身に付けさせたりして、学習に集中できるような環境をつくるようにする。</p>